

## アガペーに会う（第6回）「共に歩む信仰の旅路」

### イザヤ書 43 章 1～4 節

1 しかし、ヤコブよ、あなたを創造された方、イスラエルよ、あなたを形づくられた方、主は今こう言われる。恐れるな。私があなただを贖った。私はあなたの名を呼んだ。あなたは私のもの。2 あなたが水の中を渡るときも、私はあなたと共におり、川の中でも、川はあなたを押し流さない。火の中を歩いても、あなたは焼かれず、炎もあなたに燃え移らない。3 私は主、あなたの神、イスラエルの聖なる者、あなたの救い主。私はエジプトをあなたの身代金とし、クシュとセバをあなたの代わりとする。4 あなたは私の目に貴く、重んじられる。私はあなたを愛するゆえに、人をあなたの代わりに、諸国の民をあなたの命の代わりに与える。

### マタイによる福音書 28 章 20 節

あなたがたに命じたことをすべて守るように教えなさい。私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。

今日はいよいよ「アガペーに会う」シリーズの最終回となります。これまでに学んできたことを振り返りますと、

- ・ 私たちは生まれながら、知らず知らずのうちに誰かから「条件付きの愛」を受け、それによって心に傷を負って生きてきた
- ・ その中で生じた痛みが、周りの人に向けても影響を及ぼしていた
- ・ しかし、神様はその痛みを抱える私たち人間を無条件の眼差しで見つめてくださっていた
- ・ その「アガペーの愛」に御言葉を通して出会うことができた
- ・ アガペーはイエス・キリストの内に完全に宿っていた

そんな内容をご一緒にたどってきました。今日は、ここまでの流れを踏まえたうえで、「では、アガペーと出会った私たちはどう生きていくのか」という**信仰の旅路**について一緒に考えていきたいと思います。

私たちはこれまで、「信仰」というものをどのように捉えてきたのでしょうか。誰かから聞いた教えを心に受け入れる、見えない存在を信じる——もちろんそのような「内的決断」や「内的変化」という側面があります。しかしながら、信仰とは何かを“信じること”だけを意味するのではなく、「信じた相手と共に生きる」という実際の行動が伴うものなのです。アガペーなる神様を知った人は、この方と共に生きるという、まさに二人三脚の歩みが始まります。

私たちは、この人生の中で、喜びも悲しみも経験するでしょう。物事がうまく回っているときには自然と感謝の祈りが溢れますが、失望する出来事やショッキングな事件に巻き込

まれるときには苦しんで、精神も肉体も疲弊するものです。「主よ、どうしてこんなにひどいことが起きるのですか」と問いかけたくなることもある。それでもなお、信仰の旅路とは、「時が良くても悪くても、この方が共におられる」と信じて歩む道です。それは一面、結婚生活と似ています。結婚式の誓約で、新郎新婦にはそれぞれこのような誓いを立てていただきます。

健やかなる時も、病める時も、喜びの時も、悲しみの時も、これを愛し、これを敬い、真心をもって支え、命ある限り、共に歩むことを誓いますか。

「二人が共に歩む」とは、順境の時はもちろん、むしろ逆境を共に乗り越えていくことこそが重要なのです。私自身も、結婚 16 年の歩みの中で、病に苦しみ、挫折を味わい、人間関係に悩んだこともありました。しかし、そういう時こそ夫婦は共に生き、励まし合いながら乗り越えていくことができます。これと同じように、私たちはアガペーなる神様との二人三脚の関係に入ったのです。神様は私たちとどんなときにも共に歩んでくださる。

イザヤ 43:1-2

**恐れるな。私があなたを贖った。私はあなたの名を呼んだ。あなたは私のもの。あなたが水の中を渡るときも、私はあなたと共におり、川の中でも、川はあなたを押し流さない。**

私たちは、ここに出てくる「**あなたの名**」ということばを、文字どおり自分自身に語られたことばとして受け止めたい。神様は、私の名も、あなたの名も知っておられる。私たちがどんな暗い過去を持っていたとしても、どんな弱さを抱えていたとしても、こう語ってくださいます。「**あなたは私のもの**」と。神様は人を受け入れることにおいて、条件を必要とされないのです。それが、私たちが知る「人間の愛」と根本的に異なる点です。人は人生のどこかで形づくられた自分の中の「常識」に基づき、「こうでなければ私はあなたを受け入れない」という暗黙のメッセージを発しています。その「常識」によって裁かれるとき、人の心は傷つくのです。それはまさに「アガペー」から離れた価値観がもたらす「傷」です。よって、人の心が真に癒されるのは、アガペーとの出会いを置いて他にはありません。

主イエスが弟子たちに語られたことばは、まさに無条件のインマヌエルの約束でした。

マタイ 28:20

**私は世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。**

これが、信仰の旅路を歩むすべての人への主イエスからの約束です。私たちが地上の生涯を歩むとき、途中で疲れたり、迷ったり、立ち止まってしまうこともあるでしょう。私たちが望んでいなくとも、「災い」は向こうからやってきます。ある物事に一生懸命取り組んだけ

れど、思うような結果を出せず、自分を責めてしまうこともあるでしょう。あるいは、身から出た錆によって「刈り取り」に苦しむこともある。誰かが愚かな過ちを犯すとき、ほとんどの人間はその人に対して冷たい視線を投げかけます。しかし、主イエスはそのすべてを知った上で、尚も「一緒に歩いていこう」と声をかけてくださるのです。

神学生時代、ある先生がこうおっしゃっていたのを印象深く覚えています。

「主イエスが『共に歩む』と言ってくださるとき、あなたの人生の重荷をゴッソリ取り除いてくれるということではありません。その重荷を『共に担ってくださる』という意味なのです。」

主イエスは私たちが抱えている様々な重荷を、「私も一緒に背負おう」と言い、足並みを揃えて伴走してくださる。十字架を背負ってゴルゴタの丘を進まれた主イエスの姿には、私たちのあらゆる重荷を共に背負う決意が込められていたのではないのでしょうか。信仰とは、このイエスに愛されていることを信じ続けること。そして、「自分もまた、その愛を他の誰かに手渡していく」ことでもあります。この世の常識とは相容れない「無条件の愛」が、私たちを新しい生き方へと押し出す。私たちもまた「無条件の愛」を差し出す存在になれるのです。

教会——それは、アガペーに生きようとする仲間たちが集う場所です。信仰の入口にいる人も、長く歩んできた人も、皆で励まし合いながら、一步ずつ前に進んでいく。皆様は、一人ではありません。主が共におられ、私たちもここにいます。アガペーに出会った私たちの歩みは、これからも続いていきます。迷う日も、涙する日も、笑い合う日も、祈る日も、すべての時に「神のまなざし」に包まれていることを忘れずに歩んでまいりましょう。

### 【祈り】

恵み深い天の父なる神様。今日まで「アガペーに会う」旅を共に導いてくださり、ありがとうございます。私たちがどのような過去を持っていたとしても、あなたは名前を呼び、「あなたは私のもの」と、変わる事のない愛で受け入れてくださいました。痛みの中にあるときも、迷いの中にあるときも、あなたは共にいてくださる方、時に語り、時に涙しながら、私たちの歩みに寄り添ってくださる方であることを、私たちは御言葉を通して知ることができました。主よ、私たちがこの無条件の愛に押し出されて、人を裁くのではなく、受け入れる者として歩めるようにしてください。誰かの痛みに目を留め、誰かの心の声に耳を澄まし、小さな一歩でも、アガペーの愛を手渡していけるようにしてください。私たちの信仰の旅は、まだまだ続きます。時に疲れ、立ち止まる日もあるかもしれませんが、そのすべての瞬間に、あなたが共にいてくださることを信じて、この一週間を、新たな希望をもって歩み出せますように。

### 【祝祷】

仰ぎ願わくは、  
人生の重荷を負う者に手を差し伸べ、共に担ってくださる、主イエス・キリストの恵み、  
人生の中で受けた様々な傷を、やさしく包んでくださる、父なる神の愛、  
神と共に歩む道に常に伴い、その心をアガペーで満たし続けてくださる、聖霊の親しき交わりが、  
ここに集う一人ひとりと、その家族と、友人と、この時代を生きるすべての信仰者の上に、  
今も後も、代々限りなくありますように。